

環境に対する配慮

当社は企業活動において、社会的責任を果たす為にも環境の保全は重要な責務と考えております。

当社における、環境の基本理念により、環境保全の取り組みとして

1. CO2 排出抑制/削減の取り組み
2. 生物多様性保全の取り組み

を実施致します。

1. CO2 排出抑制/削減の取り組み

限りある資源を大切に扱い、省エネルギー・省資源を推進することにより、温室効果ガスである、CO2 の排出抑制/削減に取り組みます。

CO2 排出抑制/削減について、当社で出来ることを確実にを行い、環境保全に取り組みます。

- ・空調の適温化（冷房 28 度程度、暖房 20 度程度）を徹底します。
- ・空調を必要な区域・時間に限定して行います。
- ・空調・冷却設備の保守点検をこまめに実施します。
- ・エレベーターの適正使用を励行します。
- ・照明の適正化、昼光の利用、スイッチの適正管理を積極的行います。
- ・コピー機、パソコン、プリンタなどの OA 機器について、エネルギー効率をチェックし、エネルギー効率の高い機器を積極的に導入します。

CO2 排出状況（小数点第 1 位で四捨五入）

種目別一覧	CO2 排出量(t)		
	2016 年度	2017 年度	2018 年度
電力	23	20.9	11.5
都市ガス	12	0.1	0
CO2 総排出量	35	21	11.5

※過去 3 年分の本社オフィスの排出量となります。

1.1 2016年度 CO2 排出削減の目標と結果

2016年度は、「2015年度と同様の排出量を維持」を目標としました。結果として2015年度 CO2 排出量 31t に対し、2016年度の排出量は 35t と 12%増加となり目標は達成できませんでした。原因として、前年度に比べ本社オフィスで活動する従業員の増加により、電気機器の使用量が増加したためと考えられます。

1.2 2017年度 CO2 排出削減の目標と結果

2017年度は、「2016年度の 12%削減」を目標としました。結果として CO2 排出量は 21t となり、前年度より約 40 パーセントの削減をすることができました。原因としては、6月よりガスを使用する旧型のエアコンから電気を使用する新型のエアコンに切り替えたことで、社員の節電意識が高まったことと、前年度に比べ本社オフィスで活動する従業員が減少したことが削減の要因であると考えています。

1.3 2018年度 CO2 排出削減の目標と結果

2018年度は、「移転先オフィスの CO2 排出量を把握することを」を目標としました。結果として、1年間の CO2 排出量は 11.5t、移転後の 8 か月間の排出量は 6.9t となりました。2018年度の同期間の CO2 排出量の 13.7t に比べ、50%少ない結果となりました。

1.4 2019年度 CO2 排出削減の目標

移転先の 8 か月間の CO2 排出量を考慮すると、1年間を通しての CO2 排出量は 9.1t になると考えられます。

しかし、2019年度は会社の受託業務強化の方針に伴い、社内に滞在する人数が増えるため、電気の使用量が増え、CO2 排出量が増加すると考えられます。

そこで、2019年度の目標は CO2 の排出を抑え、9.1t とすることを目標とします。

2. 生物多様性保全の取り組み

当社は地球環境における、全ての生物が健全な営みを持続するためには、生物多様性について理解し、その保全に努めることが大切であると考えております。

生物多様性保全について当社で出来ることを確実にを行い、環境保全に取り組みます。

生物多様性に悪影響を与える、環境破壊を抑止する目的で以下を実施致します。

- ・ 詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品等の長期使用します。
- ・ 紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を徹底します。
- ・ コピー機、プリンタのトナーカートリッジの回収とリサイクルを徹底します。
- ・ 生ごみ等の分別・リサイクルや適正な焼却処分を極力行うことにより、有機物の埋立処分を抑制します。

また、具体的な生物多様性保全活動として、以下を実施致します。

- ・ 従業員に生物多様性保全に対する意識の向上のために必要な教育を行います。
- ・ 各自治体やNPO等が主催する自然保全活動（ゴミ拾い、植林、里山保全、森づくり等）に参加し、生物多様性保全に努めます。

2019年4月1日

株式会社シーキューブソフト
代表取締役 佐々木 喜興